

【資料4-1 小田原市市民活動・協働応援制度補助金交付事業等に関する調査結果】

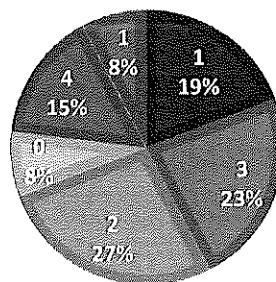
- 1 調査対象：令和6年度補助金交付団体
- 2 実施時期：令和7年4月1日（火）～5月8日（木）
- 3 回答数：9団体（R6年度交付団体11団体中）
- 4 回答率：82%

Q1 小田原市市民活動・協働応援制度をどこで知りましたか。

①市ホームページ	1
②UMECOホームページ	3
③以前に補助金を受けていた	2
④広報おだわら	0
⑤UMECOだより	4
⑥その他（※）	1

※⑥その他…他の団体が採択されたのを見て

■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6



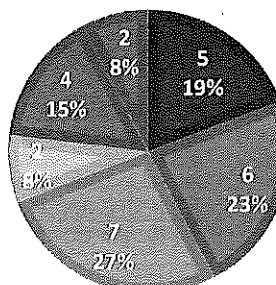
Q2 団体活動の情報発信は何を利用されていますか。（複数回答可）

①チラシ等の紙媒体（※①）	5
②ホームページ	6
③facebook	7
④X（旧Twitter）	2
⑤Instagram	4
⑥その他（※⑥）	2

※①配布先…公共施設、学校、図書館、UMECO、社会福祉協議会、イベント会場、店舗

※⑥その他…FMおだわら、地域情報誌、新聞、県・市のSDGsパートナーへの周知

■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6



Q3 補助金制度のリニューアルや補助金制度全般について

良かった点や課題だと感じた点についてお聞かせください。（自由記載）

- ・書類が多く、作成に労力が必要であった。
- ・資料の提出が煩雑に感じる。
- ・市民活動を行う人にとって、ありがたい制度であるが、準備や報告の手続きが想像以上に時間がかかってしまった。
- ・市民活動団体は高齢者や仕事をしていない人が多い。現役世代でなければ書類作成やプレゼンテーションは大変だと思う。しかし現役世代は仕事や家庭のことで精一杯。
- ・どの応募団体も地域を考え、ボランティアで自分のお金も持ち出して頑張っていると思ったが、一部の審査員の応募団体を評価する姿勢や態度が高圧的であったのは疑問であった。

- ・活動を進めるにあたり大変ありがたい制度で課題は特に感じていない。
 - ・より広く、多くの方々が関心を持ち、活動を広報する機会が増えて、交流や活動の場が広がった。
 - ・市民活動がより広くより深くなって、生きがいが得られるようになるために、様々な団体が結びついて、新しい価値を生み出していく手段としたい。
- 小田原市の目指す街づくりの政策推進に、市民活動が一緒に行うことで互いに良い関係でありたいと思う。
- ・協働コースの新設は良かったと思うが、申し込むタイミングが難しいと思った。
 - ・市担当課と民間団体のやり取りの前に、UMECOが介在するところがわかりにくかった。
 - ・市民活動の資金援助や、やり方のサポートをしてくれる制度は大変良いと思う。ただ、必要な経費であっても補助金の対象となるものとならないものがあり、その判別が難しいと感じた。
 - ・例えばイベントなどを手伝うとき、手伝いの人を頼んだらその経費は対象外となる。講師謝礼は認められるが、手伝い謝礼は認められない。市の文化サポーターのレセプションリストにも必要最低限の日当が支払われていて有償ボランティアが当たり前になりつつある時代なのに、まったくそぐわないと感じた。

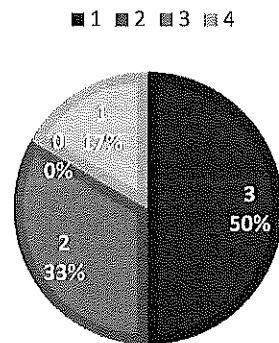
Q4 省略（Q5～Q7への設問誘導のための、交付を受けた補助金コースの選択設問）

Q5 スタートアップコース、ステップアップコースを利用した団体にお尋ねします。

今後、将来的に他主体との協働で③もしくは④の協働コースを利用する予定はありますか。

①ある	3
②なし	2
③協働には前向きだが相手の探し方がわからない	0
④その他（※）	1

※④その他…活動を始めたばかりなので、
今後検討していきたい。



Q6 省略（市民タイアップコースまたは市民×行政コラボアップコースの交付を受けた団体あて

Q7 の設問であったが、回答なしのため）

Q8 すべての団体にお尋ねします。

補助金制度利用終了後も、現在の事業を継続予定ですか。

①継続予定	8
②継続予定はない	0

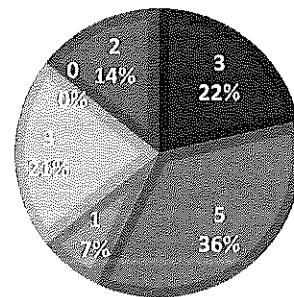
Q9 Q8で「④ 継続予定」と回答した団体にお尋ねします。

終了後も、同様の事業を実施するために、どのような方法で資金を確保していきますか。

①物品販売等、収益性のある事業の実施	3
②寄附金、協賛金等（補助金は除く）	5
③他の補助金制度	1
④物品・会場の無償提供（金銭面以外の援助）	3
⑤事業規模縮小、経費削減	0
⑥その他（※）	2

※⑥その他…公演入場料、参加料、自己資金

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6



Q10 省略（Q8②該当なしのため）

Q11 補助終了後も、団体が事業を継続・発展させるために、どのような支援（補助金を除く）があるとよいですか。（自由記載）

- ・活動資金や人材の確保等、市民活動団体の運営に関する研修、情報提供
- ・協力し合える団体・企業・地域等との交流、コーディネート
- ・「フェスタができる場所」が欲しい。駐車場などのご協力も。
- ・地域の現状を知ってもらうことが重要なため、フェスタや講座を開いての、交流を実施。自身の団体のことを知ってもらうきっかけにもなる。
- ・公民館や空き家などが無償または低額で利用できるとよい。
- ・公民館は物販の許可が得られないところがある。大きな利益を出すのではなく、「知って貰うため」の出展なら物販込みの利用が許可されてもよいのでは。
- ・行政の協力・参画
- ・UMECOや地域政策課の職員による継続的なサポート

Q12 他の主体と協力して活動した経験がありますか。

①ある	8
②ない	0

Q13 Q12があるとの回答の団体にお聞きします。

協働相手について、相互の役割、協働して良かった点、課題点をお答えください。（自由記載）

- ・他団体との共催事業において、当日スタッフとしてボランティアの方が多数お手伝いをしてくれてありがたかった。その一方で、皆さんが無理をしてないか、負担がかかりすぎていないか、心配でもあった。イベントの質を上げるにはある程度のスタッフ数が必要だが、すべてボランティアで無償なのが心苦しい。弁当と交通費を支払える有償ボランティアを認めてほしい。
- ・自身の団体スタッフのみでは手が足りず、社会福祉協議会や自治会、包括支援センターの協力のもとに事業が成立した。今後も協力のもと事業の拡大を図っていきたい。
- ・お互いの活動への理解を深め、親しくなったことでさらに活動の場が広がり、相手の方の活動を楽しむ機会が増えた。
- ・つながりや活動紹介をする場が増えたことで、自分たちの活動に参加する人が増えてきた。
- ・それぞれの活動が大切にしていることが、大きな枠組みで共通していることが多く、互いのイベントで、お互いの知識を伝えあって、より自分たちの知識の向上や、活動の幅が広がるきっかけになる。
- ・市内小学校学童保育、放課後事業、PTA主催事業、東口図書館、小田原ガイド協会事業への参画など、様々な主体や団体同士の交流を行った。

Q14 全ての団体へお聞きします。

協働を始めるためには、どのようなきっかけやメリットが必要だと思いますか。（自由記載）

- ・UMECO祭りなど、定期的な活動に積極的に参加して団体としての活動の場を多くの人に観てもらい、その上で知ってもらう。
- ・ホームページで活動内容を伝え、周知することも大切である。
- ・同じ考えを持つ人、同じ分野に関心のある人が集まるきっかけとして、目標をはっきりさせて発信する。
- ・イベントがあることできっかけとなる。情報を共有し合い、つながりを広げられる。
- ・マッチングのための、ミーティングのようなものが必要。
- ・UMECOは様々な団体とのつながりを作り出してくれて、本当に頼もしく、嬉しい。
- ・職員は、たくさんの団体の方を覚えるのは大変かもしれないが、「ただの窓口」ではなく、立ち上げ当初のまま「あなたの団体を応援している」という雰囲気（やわらかい笑顔）広がる窓口であってほしい。
- ・関連団体をよく知る。よく話し合いの場をもつ。

- ・その地域の見えていなかった姿が共同体を組むことによって見える化ができ、結果として必要な人への支援に繋がる。また、地域の活性化はかつてなかった会話が生まれ、健康的な社会を取り戻すことにもなるような気がする。
- ・忙しいので、なかなか難しい。
- ・協働を希望する団体の一覧表の配布。
- ・協働で活動を行う場合、会議室が無料になる。
- ・協働で活動を行う場合は、UMECOや地域政策課などの担当職員がついてサポートを受けられる。
- ・活動の反響を得て社会的に意義があると感じれば感じるほど、継続していかなければと強く思うが、一方で常に人手と資金の不足という問題がついて回る。しかし、市民活動団体の活動ながら、しっかりやってきているものについては、行政の強力なバックアップをいただくことができ、ある意味二人三脚ができ、世間一般から認識してもらえれば、長く継続的な活動がやりやすくなると思う。

Q15 市民活動団体と多様な主体との連携の促進に向けて、市やUMECOに何を望みますか。

- ・活動への理解を促進する広報活動支援と、お金のかからない活動場所の提供
- ・地域課題の対策の取り組みが総合計画に掲げているような事案で、かつ、その団体が持つ専門性や知識が必要な場合、団体からの申し出を待つだけでなく、行政からも団体へ積極的に協働の打診を行ってほしい。
- ・意見や主張のつよい団体と組むと上下関係になってしまったり、政治的な方が前面に出てしまうと、他の支持団体が市民が活動への応援を躊躇してしまうことがある。全ての市民が安心して参加できるよう公平中立な活動ができるようにして欲しいと思う。
- ・審査員の質の向上を望みます。また、審査委員も団体の活動を見に来てほしい。セミナーも参加していただきたい。
- ・まずはしっかりとその団体が何をしている団体かを正確に掴んでもらいたい。
- ・当該団体が小田原市内における貢献度を正確に把握していただきたいと思います。
- ・UMECO祭りの反省会などを行うタイミングに、全員での食事ではなく活動分野ごとに分かれて食事し、話す機会を設けてみる。
- ・市民活動団体が「活動できる場所」を、非日常的なイベント会場（シティーモールやフラワーガーデンなど）ではなく、「地域の歩いていける距離の会場」を使って広めていけるように、仕組みを工夫していただきたい。
- ・三の丸ホールやUMECOの会場を使って、市民がより自発的に自由にやっていけるよう、ねらいを明確にして進めることが大切だと思います。
- ・そのためにも建設的な意見を互いに議論し、語り合う場、例えば「ぶんかカフェ」のような場を設け、様々な事業を市民主体に発信していくグループの形成が大事だと思う。

・ 様々な市民活動の更なる発展のための、小田原市とUMECOが一致協力して、もっと市民の自発的な活動を集めたセンターとして「日本一の公民館」をめざしてほしい。